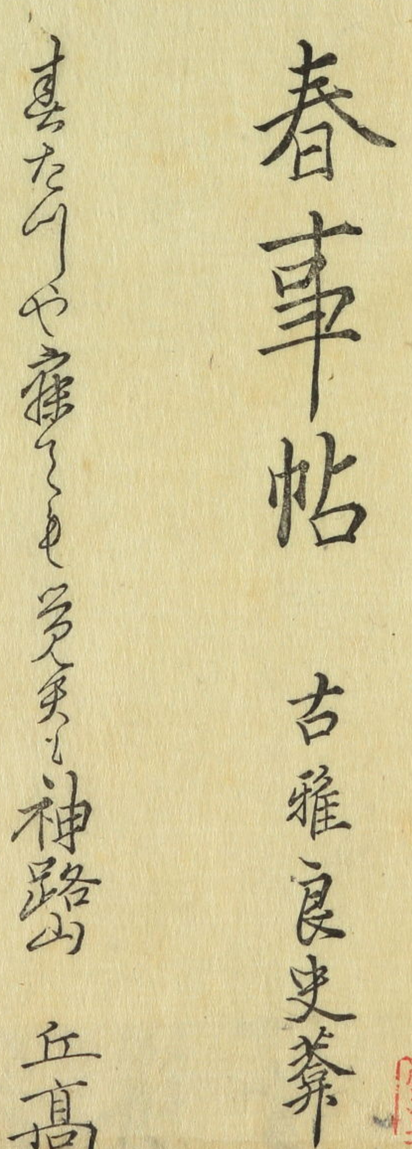
錯簡

春事帖

春事帖

古雅良史莽



蓬莱文庫

春くれぬ　鳥舟
春雨や　巴丘
春ごとや　斜谷
麦来て　月恒
ゆくえ　至石
おもかげ　六齋
春立や　女章

傳聖徳法師の御墓　西郊
春たつと　流器
立ちのけし　蒼雨
食物なくて　一木
清炭の　雙石
春立や　不及

○

[illegible]　夜の鳥　文年
[illegible]　成[illegible]
春[illegible]　朝[illegible]　女仁
[illegible]　花紅
[illegible]　吐月
[illegible]　貫山
[illegible]　菓所

[illegible]　紋
[illegible]　土佐
[illegible]　如拝
[illegible]　支湖
[illegible]　斗及
[illegible]　宮晴
[illegible]　其吏

大名に能登守や高野新[illegible]　[illegible]
夜に成なれば柳の形　一木
紙一重書かゝる其方の形　[illegible]
[illegible]山より流るゝ　柳の形　鮮言
[illegible]門に建ての元の柳の形　[illegible]
朝夕に[illegible]　柳の形　六角
[illegible]門や屋敷を[illegible]　玉乙

○
[illegible]月に[illegible]の郡　雙石
[illegible]　其白
[illegible]解[illegible]　丘高
[illegible]人のおひたり　如龍
[illegible]　月恒
[illegible]月に面　[illegible]所

接待所にて松ノ下の奥　後水

女の声かすかにひとすがらのみく　四溪

秋さらば男もてのみにつかふ　東郷

月の光をひきてとり　不及

見ひろめもなくなりぬ　一示

時雨も嵐も何の本堂　石

かすかなる梶の音　白

夏の月の光にいつるや朝　柳　笠西

夏の夜八月夜の月の光の郷　ふ

夏柳すくるの樹もあうる家梨　見さ

夏なれやあるや夏の如斗のなる面　かう

夏柳や男と夜明る山ひとり　業所

夏柳の葉のめ出ぬ梨　西彩

夏柳すくるの小雪哉　保美

[illegible]

[illegible]

人[illegible]あれども菜[illegible]入都[illegible]郷　[illegible]

[illegible]やを[illegible]籠[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]　月恋

つ[illegible]も[illegible]た[illegible]梅[illegible]　[illegible]舟

[illegible]　[illegible]の[illegible]郷　[illegible]

[illegible]や[illegible]ハ[illegible]し[illegible]　[illegible]

一時[illegible]より[illegible]の[illegible]　、

禁[illegible]　在信州　南江

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]　、

[illegible]　梅[illegible]　、

春[illegible]小島[illegible]　在豊後　三径

[illegible]　、

春[illegible]　、

明ほのゝや川や茶屋のうを煮のいと　在飛彈　龜石

煮たちて加茂の川瀬の水の山吹　在豫州　湖聲

こしの雪消ぬとゝなる山家哉　、

夕暮ぬ春たつ風の音ばかり　、

春たつや物しくの海のいろ　在京　呂蝶

一日い家にしわしらしの雪　、

枯えても主ぬはぬ都の秋　、

嵐こそ風ふるなるこしの軒の梅　南詞

放れ田の雁ひとつ声ふるゝ　右雄

朧月ほのぼのとなるしの河水　道爲德

花鳥と秋のこゝろ重る朧月　一葉斧　滄波

○

蜀くの書よ椿の落る家利　田丸　杉蓋

居殘りて机の先のかゝる哉、　蓮

○

ちゝ母や赤丸多ゝ婦のうち　西山人

青柳やはるつゝほのゝ石地藏　大簣

初市や牡丹かゝる賣言葉　玉潤

○

春たちぬゝと日のなゝうゝ　在越後　孤蘭

ゝしの重陽ゝゝ年折ゝる八

正月の出雲面ゝ行長し　一木

正月も象ゝたちたる御ゝの郷　戍西

正月を市日ゝたる字みのれ中　東河

正月や川ゝゝ舟ゝの清ゝゝ　爐姿

正月や秋の座ゝ福壽草　不及

○

初日君ゝたゝたゝゝ仲しや猫の恋　浚水

後ゝ[illegible]あらそひけるなし猫のこゝ[illegible]　如龍
猫の恋佛[illegible]して別[illegible]もとり　不及
雨合も夜の[illegible]比なりて猫の恋　鉢谷
[illegible]の[illegible]ゝ須ふ[illegible]猫の恋　雙石
猫のこひ[illegible]やふ[illegible]夜ハあし　東河
職夜の隣[illegible]恋し猫のこひ　菊所
恋に飽て猫の眠り[illegible]　西郊

恋猫やいつれを妻と定[illegible]　[illegible]
猫の恋目小[illegible]敬古呂の似さう[illegible]　ゆうさ
日南ゝも哦[illegible]出る猫うれめ[illegible]の郎　かうう
猫の恋たゝ[illegible]ゝ[illegible]る歌[illegible]　爐好
猫の恋かゝ[illegible]のあ[illegible]あるれなり　巴丘
[illegible]如[illegible]の部[illegible]の[illegible]猫の慈　一木
[illegible]種[illegible]加[illegible]行男[illegible]郎　四溪

曙の空にうそぶく男猫の南　高
恋をするとやさしかりけるこの主哉　東郷
夜の猫寝ぬ夜をありて気ぬなり　同旦
朧月寝ぬる松の梢の月　高
春の道水を伸けて移る雲天　東郷
水のうへの波紋の少きを　不及
我拙を朝ぬ我拙の業をなし　後水

朝日の微の消る白露　高
男子の赤紙の名身ふいの名なり　郷
相を葬ふ水も散あふ月　水
川の空の雲くらし方堂　法
弓術を伝武者の経文　龍
経文と鳥の鳴てうけるを　言
其昼の雲の雲て散て　及

春風や堵列の都人　西

恋なる恋もさぞ河南　仁

薫り馬の嘘るかすさぶ　雅

知識　春ゝ[illegible]ふ[illegible]ふ　永

さゝふく落葉擽身少[illegible]　濱

垣とふ物[illegible]　乙

浪紫や[illegible]神の影　沢

炭いけて出れ又まちの春の月　双西

貴の月さの歌とこそ成ふ利　東所

さの歌や俤の付る松の風　月性

春の歌八猿蓑より仙左衛門　嘉毎

春の歌も[illegible]　東石

さの夜八明そ[illegible]す[illegible]し山　高

風[illegible]ふ又[illegible]の　忘　不及

京都を延ばすもとゝなるべく　雙石

たゝかひの空　魁　四溪

野ゝを朝霧ながめつゝ　東郷

猿の啼ハ毛ゝ丸京絵　如龍

拾ふ古京古戸の秋ともなし　後水

捨てゝ去ハ空の夕暮　石

いなり火を悲しむ武蔵野　政

呉さしや柳ちつゝ門のまゆ　双石

門松やゆ我玉のあたれや　東谷

門業ゝ古来の歌の扉ゝ　不及

○

吉野の春も世ゝ捨てゝ人ハ搭ゝ　後水

春の夜や逢坂越ゝ人ゝ　四溪

吉野の春ハ梅ゝ生ゝし人ゝ　如龍

[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]と　不及

[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　斜言

[illegible]の[illegible]や門へ[illegible]て面影　巴丘

[illegible]の[illegible]と更て[illegible]と八里八十[illegible]　一木

[illegible]の[illegible]の[illegible]八[illegible]り[illegible]て[illegible]　女　紋

[illegible]の[illegible]や[illegible][illegible]れた[illegible]鏡の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]八[illegible]の[illegible]なる[illegible]　[illegible]

門家[illegible]神の[illegible]のうち[illegible]　如柳

[illegible]や門[illegible]て[illegible]の[illegible]　井及

初[illegible]や小[illegible]袖[illegible]の門の松　魯劔

門松や[illegible]て潛[illegible]今[illegible]の[illegible]　時有

門家や[illegible]て[illegible]向同士　定晴

戸を[illegible]の家　信重

神[illegible]や[illegible]の[illegible]門の松　曉白

門松は冬も青さを忘れず　一木

静さや堂のとばりの苔の花　友古

我影をみとめらるるの松　龜卜

門の松人乃心我等も見る　成風

嬉しさのそとの気色や門の松　友之

濱風の音笑うてかすめる窠　父年

百年をめぐりあうて老の身とそなる　吐月

寄東郷

まこと風人を映　高蓉

見つるかの鷹のわけ入し　似蓉

山乃寺は汝のそしまる　郷

見あつる京の糸薄　高

まるる中に新の つまをなさ　蓉

[illegible]の[illegible]人の[illegible]

郷

雲の[illegible]し果たるの[illegible]程

高

すゝと来[illegible]

蓉

[illegible]ぬ[illegible]みし新の[illegible]

郷

業平[illegible]して[illegible]る[illegible]

高

窗[illegible]とゆゝ[illegible]

蓉

[illegible]やゝ[illegible]の[illegible]

郷

旅乃日記乃よと礼[illegible]

龍

耻多[illegible]歟[illegible]

蓉

奥[illegible]

又

溪

○

うつろふといふ時花乃けしきこの歌

後水

古[illegible]

東郷

嵐[illegible]花や[illegible]を動[illegible]

四溪

都なるゆふ雨もなくて山さくら　如龍

さくらこのうけふも名とあるを縁　恕醉

九歩まで庶人えゆ新樹来　侶蓉

花さて面々朝の風雲　少年　鳳丘

庭の苔ぞ故郷なるさくら　三徑

春つゆ雨ん中や親一人　吐月

如雲さ雲雲雲花雲とうゆ人なふし　不及

春の暮寄薬店の夫婦

志ゝ——なるを詩ゝ——ゆ遠なの松ゝ影ゝ
歳ゝ——ゆ——ゆ——ゆ——ゆ

自然之翁奥深ゝ冬の松

ちくきこえんをハ

門茶ホ二日の月の糸なゝし　信元

あるじの月ゝふ音や門の松　文州

暮ゝ春ゝ老ゝ西ゝ咲冬の雲め

梅の香小猫をとりともの味ひ哉　近鶴連　香松

朝霞に夜やとり交りし胡蝶哉　清雄

○

あらたなる所のまとゐや門の柴　十四舎　百人

とゝの花を世話し交丹の赤漬哉

閑を潜とゝ出て夏の水

○

藤屋

お龍笑ひけるに朱を乾畑の不行

咲るの常と遊戯えらの程哉　庵生

あ毛と変柳て夏の田畑の面　二丈

梅の香や名のとゝ殆りし庭の庵　花隆

鉢植やとれてくゝ夏の風　一美

咲るや雪の如と夏の竿の先　五雀段　徹林

空も水も動かぬ門の冬　閑魚

取やりの かなたこなたさらさらと年の暮　〃

宮守の鐘ふり入るや冬籠　〃

門松や我人聲のうたひ初　阜士

生簀ふる雪を窺ひて年忘　〃

夕ぐれ柳の糸の揺れそめ　〃

不二の雪夜明るほしつの松　其竹

祇園女性九首錦

野州文庫

物ゝ哀や君来ませ山の道造り　湖西乃木里　玉流

かゝやく月の影や鼈てゝ小菜原　素童

酒筆小女の宵留夜見可那　素人

春の月雨も降かゝる山ゝ　湖春

○

懸鼈の尾鰭て沈るの夫の笛　越塩尻　牧之

菴屋一文字師走の菊榊　素辭　信スワ

寒麦のさゝ一輪ふるみの乳、　硯松

夜のあめいとものをとゝのへ　安斎廣信　王相

正月も市日はるやなるこの乳　洛　雪雄

青柳のうしろさと来る鴨の人、　鹿古

まつさき柳ちらし浦の家、　丈左

ふと切る草二三歩工夫する、　槐江

吹笛ふ今てて面るや柳はる　栗津　祐昌

嘶往昔里ひとゝをとゝのとし　松坂　滄波

初雪や梅こゝてゝ雪おはる月、　芳洲

春の雪松ゝをとゝ八日の雨、　椎巳

あの鶯ハおもひ切ゝ猫の恋、　南田

秋やしなゝ柳の夕梅の朝、　南湖

耳もとに夏の蚊ひとゝ鳴ゝて　陶雪

体ふとあゝて日長の雪ふり　松嶺　雪戸

末の色所くよ蔦の紅葉　、　千義

見所の折くかなる柳哉　板田川　玉蓬

船猫の啼そつれなき朧月　、　義洲

海苔ほす磯の家ちらり〳〵　、　其鶴

竹藪側の蕎麦ちらり〳〵　田九　板蓋

田畑一面の夕日かな白し午の面　多賀城　蒼梧

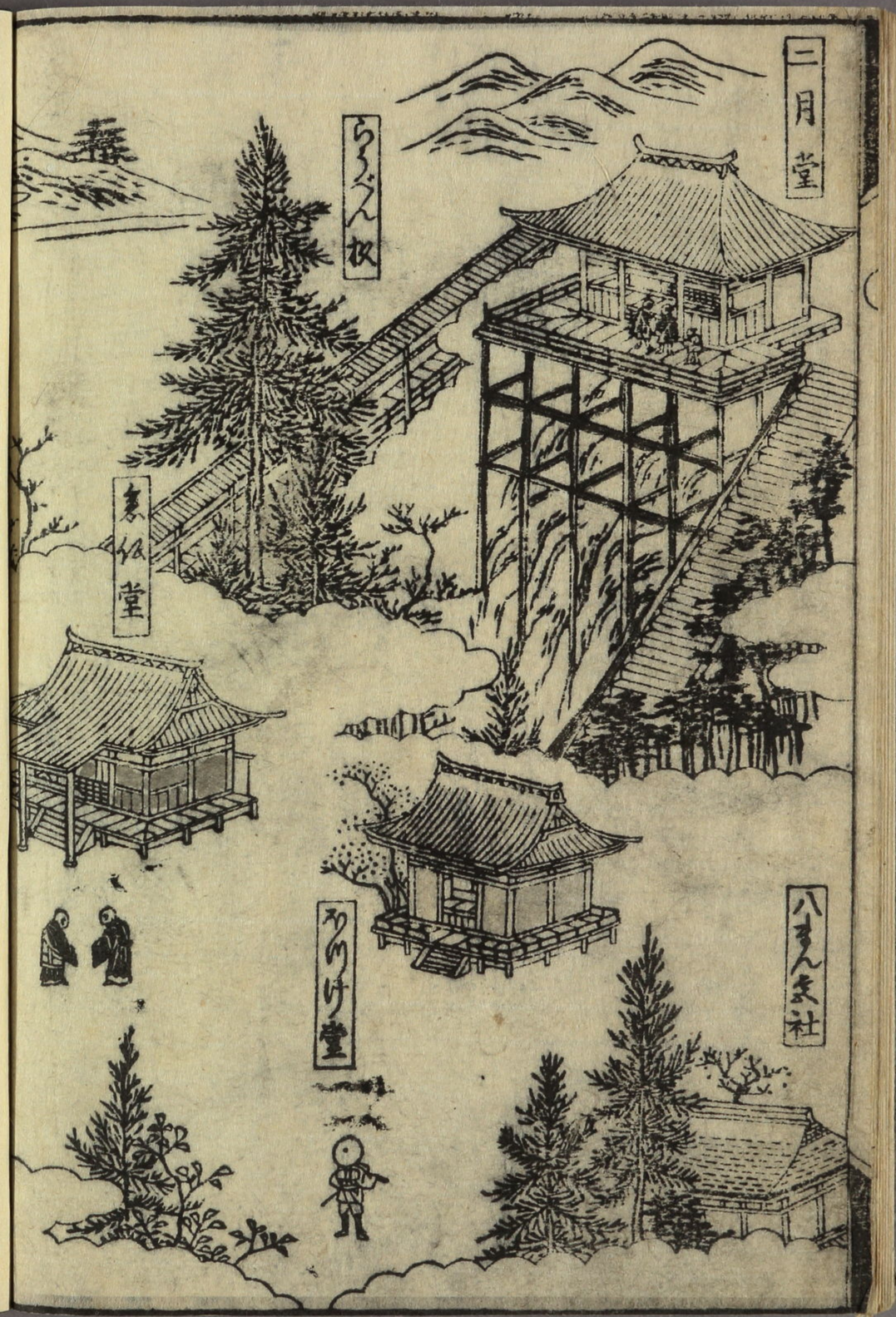
青柳の末そよぐかな霞の内　丸う　貞律

神奈川工藝仙書一表

まかりて大光をとなへりしかきよとて法花しゆとをつゞしけるんありしにせまで
てのち出家をとげてめでたび大学ふしけるとなりまた宝亀元年十一月十六日
八十五才にて寂りをまつの坊にありけりわり▲念仏堂なる地蔵におはじんの内
みやうかといふ推古わりかの者の筆やすよかくりておもふ。俊乗坊どかありあひ
ほんぞんわれにぞんするかりにて作りあれは一尺の地蔵をそますまに身の切りきさをにとあ
しとんこれをえうけしそん像の腹んみつ守こあ。世におかたの地蔵といふ▲俊乗
坊重源の作也法華勅進の時の持念仏元久二年六月五日示寂年八十六才
▲鐘楼にあり九尺一寸三分高サ一丈三尺八寸あつさ八寸。周囲鋼又万弐千六百八十斤。
向鐘一子三百斤。〈未詳 八条〉とくかれのなりひゞきおもたつしかねる音むかしの
ひゞきハ▲大仏殿金銅十六丈るむかし仏は長五丈三尺五寸。あかそ長サ一丈五尺八寸。
広サ九尺五寸。ますの口の長サ八尺四寸五分。同長サ三尺六寸。れに三尺七寸。あつれに三尺ならし

傳假名在家之図

松誌第上　帝山寺一巻



53.5.27
400° 岩田